

夢カフェ 合格体験記

令和 4 年 第 58 回気象予報士試験 20 代歳女性 S.I

試験の 5 ヶ月前に「次の気象予報士試験で一発合格したいです！」と言った私に対して、「わかりました。頑張りましょう！」と言って授業をしてくれたのが中島先生でした。どんな目標に対しても否定をせず 1 番良いアプローチ方法を考えてくれます。そんな私の合格までのお話をさせていただければと思います。

1. 勉強を始めたきっかけ

私は新卒でアパレル関係の会社に入社しました。ですが、仕事にやりがいを感じながらも昔から興味があった天気の仕事諦めきれませんでした。この思いを抱えて、将来後悔したくない、仕事に就くなら最前線で活躍したいと思い、気象予報士を目指すことにしました。ここまではよくある話ですが、私は勉強に専念するため、入社して 10 ヶ月ほどで退社をします。逃げ道を作らないように退路を切りました。そんな崖っぷちでなんとも危うい合格への道のりが参考になるかわかりませんが、一例としてお聞きください。

2. 受験歴

	一般	専門	実技
57 回	—	—	—
58 回	○	○	○

私は 2021 年の 10 月から勉強を始めました。

57 回試験で一般の合格を目標にしていたましたが、試験の直前にコロナにかかってしまい、受験することができませんでした。

それから 3 月まで無気力になってしまい、一切勉強をしていませんでした。このままではまずいと思い 2022 年 4 月に夢カフェの門戸をたたきました。そして 58 回試験で無事、一発合格することができました。

3. 受講講座

クリア 10 ヶ月ライブ配信コース(2021.10～毎週)

模擬試験(57 回試験前 58 回試験前)

夢カフェ 実技対策講座(2022.4～隔週)

個別授業 6 回

4.勉強方法

一つも合格がなかった私は、4月と5月に一般専門の基礎6月から過去問7月から実技を本格的にという流れで勉強をすることになりました。

一般専門編

① 単語ノートを作る！※最後のページに添付

みなさんは気象用語全てを一言で説明できますか？

例えば、温位とは？昇華凝結過程とは？蒸気霧とは？

全部意味はわかるけど言葉で言えなかったりしませんか。私は全く言えませんでした。

このおかげで理解が深まり知識がグッと深まりました。私はこれを試験の前日まで確認し続けました。

② まとめノートを作らない！

単元の内容をノートにまとめ直すのがおすすめとよく言われていたので私も最初は作っていました。でも作成に時間がかかる割には読まなかったし、ちゃんと覚えられなかったんです。なので作るのをやめました。図を書きたい時やまとめたい時は紙にさーと書いて理解するにとどめていました。

③よくわかる気象学の一般と専門を何十回も読む！

ポイントはわからない単語があったら一章分全部読むことです。私は分からない単語の近辺だけを読んでいました。すると毎回まったく読まない文やページが出てきます。これが落とし穴です。その文が試験に出ます。先生の本は一文も無駄がないです。

③過去問

一般と専門は解いた問題分だけ力になります。私は第40回～57回までときました。

50回～57回を7月頭から40回～50回を8月からときました。

問題量が多く、一回60分で解くのでは終わらなかったため、一回30分くらいで解いていました。(この方法はいいのかわかりません笑)

そして試験1週間前からは、間違えた問題だけをやりました。

実技試験編

私は実技の勉強期間は5ヶ月間でちゃんとやったのは3ヶ月です！みなさん間に合うので大丈夫です。

① 分からなくなったら一般に戻る！

実技試験は一般の知識が図になったものです。

なので実技でできないところがあったら一般の勉強をしました。

例えば、私は実技のポーラーローが苦手でした。そのときは、参考書や気象庁のHPなどでポーラーローの勉強をたくさんします。すると、この季節に日本海側でできているこの現象はポーラーローじゃないか？と知識からアプローチして解くことができます。

実技の授業では解説で一般で習った内容を再度説明されることが多くあります。

ですから、実技で分からないことがあったら必ず一般に戻ってください。この一手間が必ず合格に近づきます。

②暗記

天気図、風の強さ、雨の強さ、台風の強さ、大きさ、地名。1 番最初の質問で出てくる暗記を覚える事です。これで大体 10 点くらい取れるそうです。大きいですね。

これを覚えていても確認しました。

③作図系は数をこなす。

前線やトラフ、等温線、等圧線。私はこれが最後まで出来ず、というか後回しにしていました。なんと対策に入ったのは 2 週間前です。ギリギリでした。本番はトラフはかけましたが、前線は大外ししました。みなさんはもっと早くからやるのがおすすめです笑

作図は 20 個くらいを厳選して同じものを何回も解きました。分からないながらも同じのを解くと、何か見えてきます。

5.勉強時間

私はストイックではないので、毎日何時間もコツコツと勉強はしていません。

気象予報士の試験は早い人だと 600 時間、1000 時間を超えると合格する人が増えていくと言われています。なので私は 2 倍の 2000 時間やりたいと当初は考えていました。

実際無理で 1000 時間くらいで終わったと思います笑。目標が高すぎたおかげで最低ラインに落ち着きました。

456 月は週に 3 回 1 日 3 時間やればいい方というゆるい形で勉強していました。

一般専門→内容は単語ノートの暗記、本を読む、たまに問題集を解く。

実技→授業と宿題でしか勉強していませんでした(2 週間で 3 題くらい)。ですが基礎(一般専門)の勉強をしていたおかげで自然と一題の点数が 38 点→58 点まで取れるようになりました。

ここでみなさんにおすすめなのが 6 月までに過去問のコピーを終わらせておく事です。枚数が多く、無駄に時間がかかります。2 ヶ月前に始めるとなんとも時間を無駄遣いした気持ちになりました。

7 月は 1 日 8 時間から 10 時間やっていました。ですが全く勉強をしない日や週もありました。焦らなくて大丈夫です。

この時期は過去問をそろそろやらないとまずいと言われて急いでやったのを覚えています。

一般専門→今までの勉強に加えて、過去問を 50—57 回まで 3 周しました。復習にあまり時間をかけずただ解きました。すると間違える問題が大体いつも同じことに気が付きます。そこを重点的に行えば力がつきます！(この時期は合格点の 12 点にとどいてません。)

実技→私はここで本番は実技を2題も解かなくてはいけないことに気が付きます、。(遅い)
一題解くだけで疲労困ぱいの私は実技の問題を解くときは2題続きでやる練習をしました。
慣れるのに1ヶ月かかりました。過去問は50—57回を1周から2周解きました。
このおかげで点数が65点近く取れるようになりました。

8月は試験までもうすぐなのに、逆に何をやればいいのか分からずポカンとしていました。

一般専門→40—57まで2回くらい。暗記のノート、気象庁の知識解説を読み漁る(これで3点くらい取れます)、先生の本を読み続ける。
今までは授業のノートや問題集をやったり、数冊の参考書を読んでいました。しかし全部やるのをやめて上記に記載した基礎の勉強と過去問に集中しました。色々やると混乱します。
実技→過去問に絞りました。47回から57回までを1周し、56回や57回の直近の過去問と苦手な問題を3つくらい選びそれだけ解きました。そして答えを見て、解答文を暗記して答え方を覚えめました。(これ意外と役に立ちます)
この時の過去問の点数は、何回も解いてる問題でも65点—70点です。
合格点に二題合わせて10点くらい足りない状態で試験を受けてます。

試験1週間前

暗記ノート、気象庁のhp、過去問のいつも間違える問題を見る。

試験当日

何もやらない。
朝から休み時間まで何もやりませんでした。先生に疲れるから何もしなくていいと言われてました。何もしなくてよかったと思います。お昼は散歩しました。
リラックス大事です！

そんなこんなで奇跡的に合格しました。

ちなみに実技は自己採点では点数が足りませんでした。なので結果が出るまでわからないと思いますよ！

6.最後に

以上合格体験記です。役に立つかわかりませんが、私でも合格できました。私は試験前日まで合格点に届いてません。どうか心配せずに自分らしく受けてください！
応援しています！

水の相変化	水が変化する瞬間
潜熱	水が相変化する時に発生する熱
顕熱	直接的な熱のやりとり
断熱変化	周囲との熱のやりとりのない体積変化
断熱膨張	空気が上昇して膨張
断熱冷却	膨張に伴ってエネルギーを消費して冷える
断熱昇温	空気が下降して気温が上昇する
乾燥断熱変化	凝結しないので空気が上昇したり下降したりする
湿潤断熱変化	凝結しながら空気が上昇したり下降したりする
フーン現象	山の風下側面で空気が(高度)により乾燥する現象
熱力学第1の法則	空気に熱を加えると、体積変化と温度変化に使われる
式	$\Delta Q = \Delta W + \Delta U$ (加給熱量) = 体積変化(仕事) + 温度変化(内部エネルギー)
比熱	物質 1kg と 1℃ 上昇させるのに必要なエネルギー量 陸は小さく、海は大きい
定積比熱 C_v	体積一定の場合に物質 1kg と 1℃ 上昇させるのに必要なエネルギー量 (空気は 0.17 kJ/kg)
定圧比熱 C_p	圧力一定の場合に物質 1kg と 1℃ 上昇させるのに必要なエネルギー量 (空気は 0.24 kJ/kg)
乾気相対湿度	未飽和の空気が水蒸気量以外の乾燥成分に比べて相対湿度

※暗記ノート

索引に出てくるような単語を覚えていました。覚えられないところには付箋を貼っていました。

関係式	MOS, PPM
MOS (モデル)	観測データの予測値と気象データの観測値から作成した関係式 系統的誤差を修正できる
システム	観測データの予測値と気象データの観測値から作成
系統的誤差	観測データの予測値と気象データの観測値から作成
PPM (パーセント)	観測値・気象データの初期値・予測値と観測値から作成
デフォルト	系統的誤差を修正できない
ドメイン	天気予報の範囲が、気象データの範囲に限定される
例	天気予報
MM (モデル)	MOSの進化系で学習能力をもたせしめた統計的関係式、必要に応じて修正できる
ガイダンスのラベル①	観測現象は同様に近い
②	気象の状況、気温の変化など、気象に敏感な場
③	ガイダンスの精度が低くなる
観測(高度・気圧)	高度の高低に補正できる
位置のズレ	移動方向、速度
ランダム誤差	系統的誤差とは異なる
観測データ	今日の明後日など、一時的な気象の観測データ
時間	5時、14時、17時
内容	天気、風、波浪、6h以上の降水確率、最高最低気温
データセット(期間)	1~3時間
短時間予報(期)	6~12時間